



しいのみつうしん

第56号

痛みと薬について

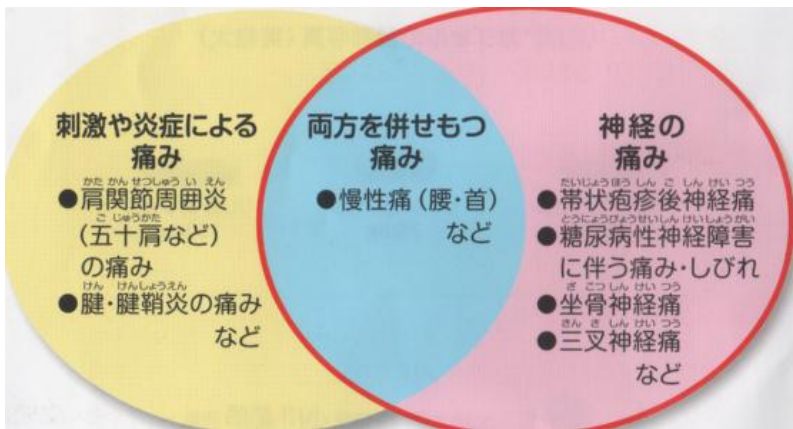
痛みは、「身体(組織)が傷ついた」という情報が、脳に伝わることで初めて認識されます。痛みの種類には①炎症や刺激により起こる痛み ②神経が傷つくことによって起こる痛みがあります。



①は外的刺激から危険を察知し、身体を守る(防御反応)や身体に異常があることを知らせる(警告・危険信号)という大切な役割があります。

②神経の痛み(神経障害性疼痛)は神経の損傷あるいはそれに伴う機能異常による痛みで様々な知覚異常をいいます。一般的な痛み止めだけでは効きにくいことが多いです。

また長期間続く痛みを慢性疼痛といい、これらの痛みが混在していることも多いようです。



神経の痛みは、しびれ感を伴う・強烈に強い痛みが短い間隔で起こる・少しの痛みが非常にひどい痛みを感じる・強い針で刺したような痛み・電気が走るような痛み・感覚が鈍くなる・なくなる など多彩な症状があります。



痛みで使用される薬

解熱鎮痛剤非ステロイド系:ロキソプロフェンナトリウム・イブプロフェン・メロキシカム・ロルノキシカム・ジクロフェナクナトリウム・エトドラク・スリンダク ほかに多数いわゆる「痛み止め」として、さまざまな痛みに対し、処方されています。シクロオキシナーゼ(COX)という酵素を經由して、痛みの原因である発痛物質プロスタ



グランジンの生成を抑えることで痛みを鎮めます。

※副作用:胃腸障害・腎障害

アセトアミノフェン

体温調節中枢に作用して、皮膚の血管を拡張し、体表からの熱の放散を増すこと、つまり汗を出すことによって熱を下げます。また痛みの感受性を低下させて、痛みの感覚をやわらげることによって、さまざまな疾患に対し鎮痛効果を示します。

末梢神経障害性疼痛治療剤:プレガバリン

痛みを伝える物質の過剰放出を抑えることで痛みをやわらげます。

※副作用 眠気・ふらつき・めまい

オピオイド鎮痛剤:モルヒネ・オキシコドン・フェンタニル・トラマドール・ブプレノルフィン・リン酸コデイン他

脊髄と脳にはオピオイド受容体と呼ばれる部位があり、オピオイドはこの受容体と結合すると、脊髄から脳への痛みの伝達を遮断して、強力な鎮痛効果を示します。

※副作用 便秘・嘔気・嘔吐・眠気

ステロイド:プレドニゾロン・デキサメタゾン・ベタメタゾン

生体内の副腎皮質ホルモンを人工的に合成した薬剤で、強力な抗炎症作用と鎮痛作用、免疫抑制作用があります。

ステロイドは、細胞が傷つくと働く酵素(ホスホリパーA2)を経由して作られる炎症物質(アラキドン酸)の生成を抑制し、痛みの原因物質(プロスタグランジン)の生成を抑えて痛みを鎮めます。

※副作用 感染症・糖尿病の悪化、誘発・気分変調・消化性潰瘍・他

ワクシニアウイルス接種家兔(かと)炎症皮膚抽出液:

その名の通り、ワクシニアというウイルスをウサギの皮膚に投与したときにできる炎症部分から取り出した成分を、分離・精製して、鎮痛作用を持つ活性成分として製剤化したものです。

痛みを抑え、感じにくくする経路(下行性疼痛抑制系)の神経の働きを活性化することで鎮痛作用を示すことが知られています。

トリプタン系薬剤:スマトリプタン・ゾルミトリプタン・エレクトリプタン・リザトリプタン・ナラトリプタン

トリプタン系薬剤は、片頭痛の治療に用いられる薬剤です。

セロトニン受容体に作用して、脳の拡張した血管を収縮させるとともに、その血管周囲の神経性の炎症を抑えることで、頭痛発作を抑える効果があるとされています。

※副作用:めまい・眠気など

鎮痛補助剤:

鎮痛補助薬とは、本来は痛みの治療薬として開発されたものではありませんが、痛みの治療に用いられる薬剤の総称です。神経障害性疼痛などの慢性の痛みや激痛の場合、非ステロイドなどでは痛みが取りきれないときに使用されます。

それぞれ鎮痛効果のメカニズムが異なります。下記のような薬がありますが、保険適応が認められていないものが大半です。

★抗うつ薬:ノルトリプチリン・イミプラミン・アミトリプチリン・デュロキセチン・ミルナシプラン他

神経伝達物質(セロトニン、ノルアドレナリン)の細胞への取り込みを阻害することで痛みを感じにくくする経路(下行性疼痛抑制系)を活性化し、鎮痛効果を示します。

※副作用 吐き気(一部に尿閉・めまい・緑内障に注意するものあり)

★抗てんかん薬:カルマゼピン・ガバペンチン・ラモトリジン・バルプロ酸・クロナゼ

パム他

神経細胞にあるイオンチャネルや神経伝達物質の受容体と呼ばれる部位に作用することで、神経細胞の過剰な興奮を抑制し、鎮痛効果を示します。

※副作用 めまい・眠気・ふらつき

★抗不整脈薬:メキシレチン

神経の興奮を抑制することで、痛みを和らげる効果があるとされています。

※副作用 消化器症状・嘔気・めまい

麻酔薬:リドカイン

神経細胞にあるイオンチャネルや神経伝達物質の受容体と呼ばれる部位に作用することで、痛みの伝達を抑制して、鎮痛効果を示します

なお疼痛にはさまざまな病態があり、それぞれ有効な治療薬は異なります。



しいのみ薬局

関市上白金 105-1

☎0575-27-0130

Fax 0575-27-0131

しいのみセンター薬局

岐阜市北山 1-14-27

☎058-241-1818

Fax058-241-1839

華陽しいのみ薬局

岐阜市祈年町 1-19-2

☎058-271-164

Fax058-275-1949

南しいのみ薬局

岐阜市芥見南山 2-8-47

☎058-244-2112

Fax058-244-2110

お薬や「健康食品」のことなどに関して、Eメール(shiinomi@blue.ocn.ne.jp)によるご相談もお受けしています。

お気軽にご相談下さい。

ファルマネットぎふ、ホームページ(<http://www.pharma-net.co.jp>)

薬剤師募集中。奨学生(薬学生)募集中。詳しくは、しいのみセンター薬局 渡辺まで